

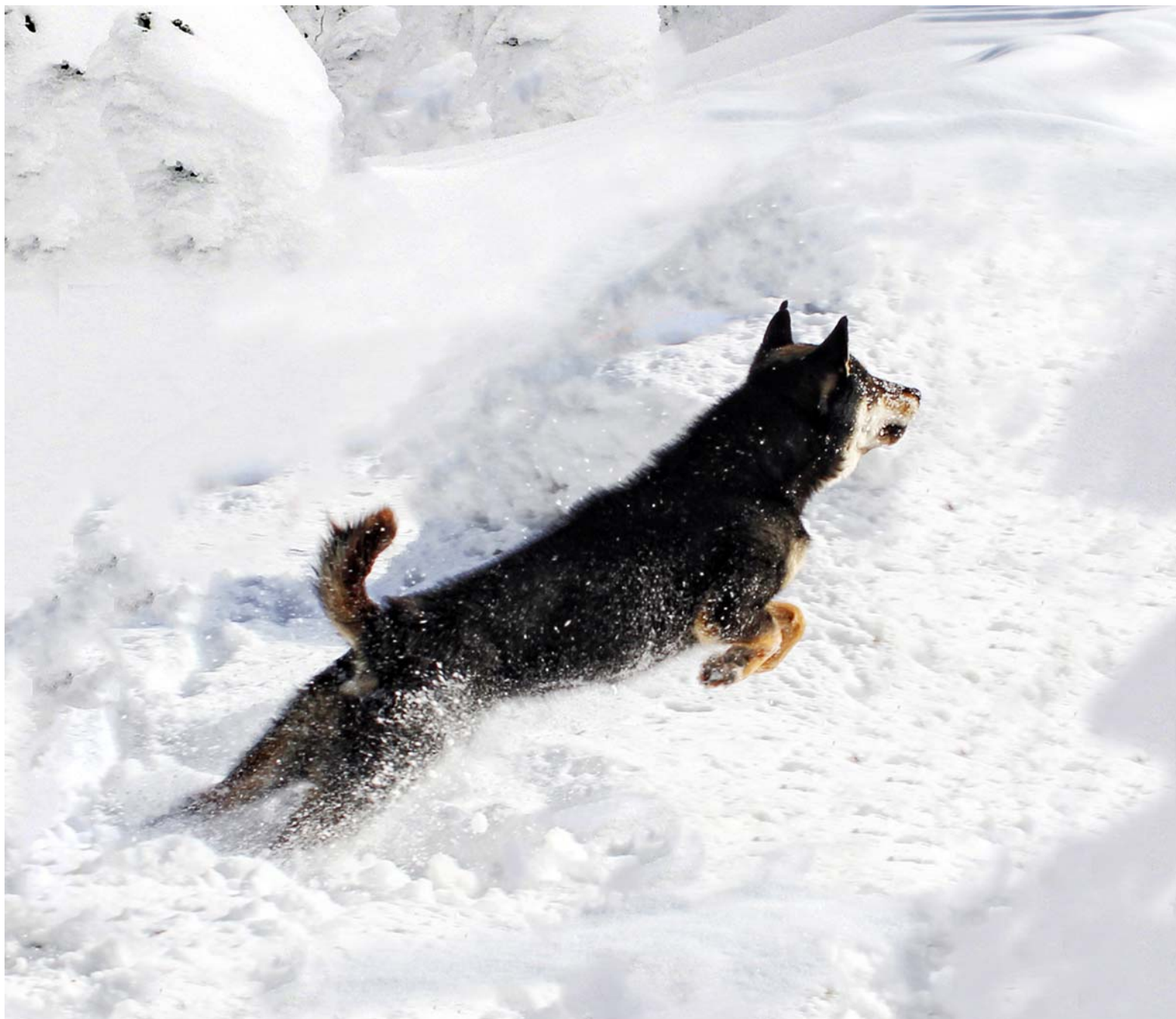
NPO 法人



2011年 2月15日

第9号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人
縄文柴犬研究センター

NPO法人



Jomon Shiba

第 9号

もくじ

縄文柴犬(竜太と未来)と暮らして10年が経ちました ☆JSRC 副理事長 橋 宏	2
シバの散歩道(9) ☆JSRC 理事・根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)	4
お便りコーナー ☆長野県・竹村さん	8
☆千葉県・宮田さん	9
☆京都府・金さん	10
☆福井県・仲市さん	11
☆宮城県・佐藤さん	13
☆北海道・堀さん	14
☆富山県・竹内さん	15
☆宮城県・田中さん	24
☆長崎県・桑野さん	24
☆北海道・橘さん	8
☆埼玉県・吉崎さん	9
☆秋田県・黒沢さん	11
☆岩手県・菅野さん	13
☆石川県・横山さん	13
☆千葉県・藤崎さん	14
☆神奈川県・溝口さん	14
☆新潟県・田中さん	15
☆秋田県・伊藤さん	24
☆山形県・吉野さん	24
☆北海道・塩谷さん	24
さくら(新田の夏女2009.2.24生)の出産記録 ☆JSRC 理事・肥田恵司	15
☆長野～秋田ドライブ報告 ☆長野県・肥田恵司	16
思い出の犬たち-9-「桜」を生きた犬(2) 柴犬研究所・五味	17
根深誠・藤井忠志対談講演会「白神山地が世界遺産に指定されるまで」-2 ☆本州産クマガラ研究会編	18
事務所報告 ☆新入会 ☆会費 ☆御寄附 ☆犬舎登録 ☆仔犬登録 ☆寄贈 ☆お詫び	22
☆縄文柴犬の基礎資料のために(クセに関する原稿をお寄せください)	22
☆諸料金一覧 ☆血統登録について	9
定例 総会・理事会・審査部会案内 ☆JSRC 理事長・新美治一	23
JoeとMon 第8話 仲間意識(4コママンガ) ☆作・ぼよよ～んオヤジ、文・風(フウ)	裏表紙・内側
広告掲載:サン獣医科	13
日の出動物病院	16

2011年度 会費などのご送金用に、郵便「払込取扱票」を同封いたしましたのでご利用ください。

*会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所

郵便振替口座 02280-2-106951

〒 014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5

TEL 0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/>

encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

縄文柴犬 (竜太と未来) と暮して10年経ちました

縄文柴犬研究センター 副理事長 橋 宏

[1] 家犬となったわけ

我が家には当時、親不明のミックス犬（呼び名・ワサビ）がいた。この犬は孫娘が飼いたいというので飼っていたのだが、面倒を見きれないと、我が家に来ることになったもの。なにしろ啼く声が甲高いのと、いつまでも啼いているので近所からクレームがついて、外の犬小屋に置けない、となったもの。

それから3年後、2000年の秋に新潟からの帰りに竜太を連れ帰った。竜太は車の中でケージに入っていたのだが、小1時間はずうっと啼いていただろうか。静かになったな、と見ると寝ていた。先輩犬のワサビとのトラブルを心配したが、その心配は無く犬たちとの暮らしが始まった。

それから3年、交流会に参加して、他の会員の作出された仔犬を見るにつけ、我が家でも、と雌犬の「未来」を12月の末に秋田から空輸してもらった。以来、我が家は犬3匹と私達との暮らしということになった。本当は外の犬小屋で寒さに負けず逞しく育てて欲しかったのだが、既に家犬となったワサビ、外の寒さの中では仔犬を置くのは可哀想だ、ということで、家の中で飼うことになった。

犬との暮らしも10年ともなれば、多少は犬語がわかるようになったが、何よりそれぞれの犬の個性があるので、飼主の自由にはならない。飼主の理解の薄さがそのまま犬とのトラブルとなってしまう。

竜太や未来にしてみれば、主人と違う他の人は自分と対等か、下に見ているのだから、時には反抗的になったりする。だから、カミさんは竜太の寝ている毛布を動かし、竜太に噛みつかれてしまい、その痛みもあって言い争いになる。噛むのはいわゆる甘噛み程度であっても、痕が残るからしばらくは「竜太奴」といつている。ようやく少し犬語がわかりかけた、と言っていたのに。

[2] 冬の散歩

今年は“暑”といわれたが、犬達もこのへんな気候には順応出来ない様子で、家の中の方が



手前：先輩犬=ワサビ

左奥：竜太=天の柏王-天童犬舎・2000. 9. 4生

(東毛秋月×風神の紅)

右：未来=和の雪姫-どやくの宿・2003. 11. 22生

(彩の琥王×中仙菊姫)

外よりも過ごし易いと思うのか、外の小屋へ繋ぐけれどすぐに家の中へ入れて、と要求する。結局、その啼く声で仕方なく家の中に、となる。近所とのトラブル、との心配もあるけれど。

今、外は粉雪が音も無く降っているが、風は無く、この様子では雪が積もることはない。先日の会津地方の雪害のニュースには驚いた。その、会津の雪の頃、やっと当地でも雪となり、尺とはいかない積雪で前の道路や車の周囲の除排雪、除雪機を久しぶりに動かし排雪！しばらくぶりの労働？で、肩が少し痛くなりました。この雪の後はほとんど雪が降らないので道路がアイスバーンとなり、ツルツルで散歩の時は滑って犬達も足をとられ、よろっとする。それでも気温は零下5度前後ですから、まあまあという状況です。

大みそか寒波！ということで、本州や道内でも太平洋側は積雪があるようですが、札幌周辺は陽が射しています。また、道路がツルツルとならなければいいのですが。

家犬となった我が家の柴犬たちは、すっかり軟弱になってストーブの前でながながと寝そべっている。ワサビは長毛なのでストーブの近くには寄らないが、時々近くにやってきて尻尾を焦がしている。毛の先の方だから自身は感じていないのだ。



さむさの厳しい朝の散歩は、人も犬も大変だ。ドアの外の雪を見て“何だ“とたじろぐが、それも連日となると気にならないようだが、積雪が多いとなるべく雪の深くないところ、歩き易いところを選んで歩く。尺の積雪で除雪車がまだ来ていない時などは、私の歩いた後をつけて歩く。やっぱり深い雪は嫌だとみえる。先日の雪の後、しばらく雪が降らず、前に降った雪が固まって道路がアイスバーンとなり、一面に光ってスケートリンク状態となった。竜太は川面を連想するのか、そんなところへ行くのは嫌だと渋る。道路脇の所を探しながら何とか迂回しながら歩く。普通のスノーシューズでも滑るから大変なのだが、犬は爪があるからと思うけれど、足をとられる。今のところは気温がまずまずだから寒さは苦にならないが、竜太が来た年の1月2月には零下17℃から20℃となり、その時は足先の肉球と指の間に氷が付き、悲鳴を上げて動けなくなった。止むなく抱き上げ懐に入れてやり、しばらくしてやっと歩くようになった。そんなことがあって零下15℃までは悲鳴をあげることはない。ここしばらくはそんなに気温が下がることも無くなっている。温暖化の影響かと思える。

それでも氷が指の間に付くと、しばらくひょこひょここと三本足で歩く。未来は不思議とそういうことが無い。そして、多少の積雪でも平気なのはどうしてかと思う。でも、散歩から帰ると、私の傍らにぴったりとくっつくところを見ると、やっぱり寒かったのだと思う。竜太より体毛が薄く感じられるが、冷たさを感じないのか、わりと平気な様子。

ワサビは体毛が長いから足先は勿論、吻のまわりや胸や腹に雪玉を付ける。足の雪や氷を自分の歯でむしり取ろうとするから、時に出血す

ることもある。そうなる歩くのも大変、でも、悲鳴をあげるのはよくよくの時だけ。

冬、雪が積もると散歩から帰ってもそれぞれの体は汚れていないし、雪どけ道や雨の日の泥汚れを体に付けたまま家に入ることも無いので、家の中は汚れない。犬達も体全体がきれいになるから夏場よりも私にとってはありがたい。

〔3〕育て方が悪かったのか

竜太をカヌー犬に、と何回かカヌーに乗せてすこしずつでもカヌーに慣れさせようと試みた。支笏湖をあっちこっちと巡って、カヌーに乗った。しかし、オープンカヌーの時は広いから動ける。動けるといっても、竜太は出来るだけ岸に近い所へ行く為に、あっちへこっちへと落ち着かない。そこで、一人用のカヌーに乗せた。竜太はへさきに足を踏ん張っていたが、カヌーの底が上からは見えない岩にぶつかり、その勢いでバランスを崩して湖にザブリと落ちた。水中に見事に頭から沈んでしまった。もう、大慌てで泳ぎ、岸に這い上がるや、もう、二度とカヌーに乗せられないように遠くへと逃げる。その後はカヌーを組み立てていると、そこには近寄ろうとしない。そして、すっかり水嫌いになった。

未来はというと、家の中であっても、何とかケージ暮らしを、と未来用のケージとそれを囲う柵を用意した。最初はそこに入ってケージの中で丸くなっていたが、ワサビや竜太が家の中を自由に歩き回っているの、私も、とばかりに柵を乗り越える。そこで、乗り越えられないように天井を塞いだところ、キッチンとした止め方でなかったものだから鼻先でこじ開けて這い出してしまふ。更にとめてある個所を増やしたところ、こじあけようとしたまではよかったのだが、首吊りの状態となって、あぶなく窒息しかかった。こういうことがあると、もう、ケージの中や柵のある所へは近寄ろうとしない。

順を追って少しずつ経験させないからだよといわれるが、うまく行ったと思う時にアクシデントに見舞われるので、計画はオジャン。

自然にまかせるしかないか、と今は思っている。

(2010. 12. 30)

おたよりコーナー

投稿は随時受け付けています。

長野県 竹村さん

マロ新聞 2010年12月号

おかげ様でマロも無事、2才の誕生日(10月31日)を迎えることができました。

今年のプレゼントは、息子から“フカフカクッション”でした。マロはとっても気に入り、毎晩そのクッションの上で寝ています。

生活リズム、体調も良好で、元気に過ごしています。相変わらず、夜、活発になりイタズラをします。が、この頃、野性動物が民家の周りにやってくるので、神経を尖らせ「私がお家をまもるのよ!？」といった頼もしい姿を見せてくれます。

ようやく新聞が発行できました。(年に1回くらいのペースで発行したいです。)

マロの元気な姿を見ていただければ幸いです。

食餌は肉よりカボチャの煮たものの方が好き。めったに鳴かない。なんだか、「犬」というより「ねこ」のようなマロです。

家族みんながいやされています。感謝、感謝!!

(2010. 12. 14) 竹村 悦子

マロ=秋の萩姫・2008. 10. 31生

(中の夏王×太刀の優姫)



北海道 橋さん

12月、いよいよ北海道は雪の季節に入りました。

おたより、ありがとうございました。ワンコちゃんを苫小牧まで(札幌空港経由)送られたとかのうれしいお便りが本当にステキでした。いつか私も苫小牧の

お宅まで、ワンちゃんに会いに行きたいです。私は、4年間も痛み通しの足のキズが、ここ1カ月の入院・治療のおかげですっかり良くなりましたので、来年こそ明るい気持ちで会の催しに参加できるか、と、思っています。

うちの子達は私が入院中に見た写真では、淋しそう

思い出の犬たち-9- 「桜」を生きた犬(2)

柴犬研究所 五味

登録名:井垣の桜王-なかじょう・1981. 12. 20生

(紅市王×井垣の桜姫)

私達がこの犬と一緒に暮したのは、ホンの一瞬といえるような短い期間であった。中城氏からの依頼で「桜王」が私どもの犬舎にやって来た時には、既にあちこちの本や雑誌に、その逞しく均整のとれた美しい姿の写真が掲載されていて、柴犬の魅力の虜になり、各地の日本犬展覧会や本など柴犬のことがとりあげられていると知ると、仕事の合間を見つけては追いかけて見歩いた、憧れの名犬!との印象を持っていた。

この犬の作者を紹介されて、雌の仔犬をわけて頂いたり(前号)、中城氏との縁で柴犬保存会に入会したり・・・と、私達も縄文柴犬との関わりが深くなっていった頃である。東京・新宿の住まいではささやかな庭はあるものの犬の鳴き声が近所に迷惑をかけたたりして、肩身の狭い思いをし、「いっそのこと・・・」と、茨城に移り住んで犬達が遊べる庭のある家を建て、早速、柴犬たち数頭を飼い始めた。そうした私達にとっては、この、凛々しく立派な「井垣の桜王」と一時にせよ暮す、ということは大変な出来事であった。柴犬のことをもっと知りたい、との願いと一致し、諸般の事情から暫くの間にはせよ、私どもの新しい犬舎で預らせていただくことになったのだ。

桜王を我が家での愛称を「タロー」とし、すぐに私達に慣れてもくれた。他の犬達ともトラブルも無く、順調にすごしていた。私どもの家と犬舎は桑畑だった所を整地、やや小高くなったところに建ててあった。

季節は夏。日中の日差しがかなり強く、夕立がしばしばかなりの激しさでやってきた。桜王がやってきたのは、そのような季節であった。犬たちの運動場に放された桜王はどの犬もするようにあちこちを嗅ぎまわり、与えられた犬舎を出たり入ったり。

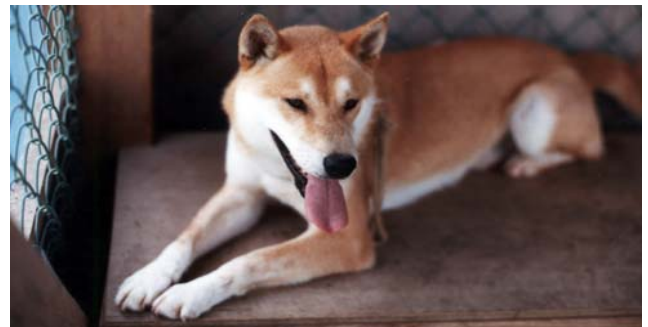
ところが、ある日突然、霞ヶ浦の湖面に反響した強力な雷鳴と共に、激しい夕立となった。運動場の犬たちは、当然のような顔をして自分に与えられた個室に入って夕立を避ける。・・・ところが、桜王だけは部屋にも入らず、軒下で座ったまま、ブルブル震えているのだ。濡れた桜王を抱き抱え、寝箱のある室内へ運んだ時は、雷鳴も雨も止んでいたが、それでも震えは納まらない。

他の犬たちは大喜びで食餌を平らげる頃になっても、桜王だけは食餌に見向きもしないで、相変わらず小刻みに震えていて、立ち上がる気配さえ見せない。やや大



↑当時、様々な雑誌などに紹介された1歳余の写真。

↓5~6歳過の顔貌や体躯構成。



↑

↓1986年夏・雷鳴のショックから立ち直った



柄な桜王だけに、その姿態が強烈であり、余計に目立つ。・・・二日目になって、それでもやっと食餌に口をつけた。ところが、せっかく食べたものをすぐに吐いてしまったのだ。立派な図体に小さな?心臓。(このコはどんな育ち方をしたのかな?)そのような疑問が湧いてきたのだ。その後、5日間も同じ状態が続く事になり、6日目になってようやく立ち上がり、食餌を食べるようになった。(次回は、埼玉の桜王)

大型犬に出会うと…



…と、これまた避けて通るのですが… ③

JoeとMon 幅 ぼよよんオヤジ

第8話 仲間意識



毎朝、近所の公園をワンたちで散歩するのだが、公園での犬々関係？はこんな感じである…

①

④

同じ柴犬に出会うと…



…と、いう感じ。犬にも同種間で仲間意識があるらしい…

②

まずは、洋犬に出会うと…



…と、全く興味なし。振り向きもせず通り過ぎ…

JoeとMon 第8話「仲間意識」

作画：ぼよよんオヤジ、文：風（フウ）

ワタシ達は縄文柴犬です。知らない犬に出会っても、(仲間か？どうか？)の違いがよく判るんです。

仲間でなければ「敵か？」「エサか？」「それともそのどちらでもない、カンケイないよ」なんてこともね。

ワタシ達、犬族はずいぶん大昔からヒトとかかわりを持ってきたんです。ヒトのそばで暮すとイイコトがある、って先祖代々学習してきたんです。その関係から考えると、“どうやらあれもイヌらしいけれど、付き合ってもイイコトがあるヤツじゃ無さそうだ”とかの先祖から受け継いできた知恵が働くのではないかな。

自分達と同じに見える柴犬さんにだって、相手になってもらうのが損か得か？その気性や経験などさまざまなことを、会った瞬間に嗅ぎわけることができる鋭敏さを受け継いでいるんです。

ね！隅には置けないでしょ？ウソなんかで誤魔化そうなんて、無駄よ！

「わーい、わーい！」「また会えたねっ！」・・・仲間に見えるとうれしいな！！

いつも会う柴ちゃんだもの、わーい、わーい！